

令和３年度原子力発電施設等立地地域基盤整備支援事業
（福井県嶺南地域間連携による地域活性化支援事業）

報告書

（公表用）

令和４年３月

経済産業省 近畿経済産業局

（委託事業者：株式会社ダン計画研究所）

目 次

0. はじめに	1
(1) 目的	1
(2) 事業概要	1
1. 提示する先進事例	2
(1) 地方において観光が地域振興に寄与している事例	2
1) 株式会社南信州観光公社（長野県）	2
2) 信越自然郷（長野県・新潟県）	2
3) ワインツーリズムやまなし（山梨県）	2
4) 株式会社美ら地球（岐阜県飛騨市）	3
5) 富山県	3
2. 先進事例等を基にした成功するための戦略的要素	4
(1) 事例等を基にした成功するための戦略的要素	4
(2) 先進事例ヒアリングの実施	5
3. 嶺南6地域の観光振興の現状と課題	6
(1) 嶺南地域の現状	6
(2) 観光政策の現状、課題、方向性の把握と地域資源の調査	9
4. 嶺南地域へのアドバイザー派遣の実施概要	11
(1) 派遣アドバイザー	11
(2) アドバイザー派遣の実施概要	11
1) フィールドワーク	11
2) 意見交換	12
3) 近畿経済産業局との意見交換	12
5. 嶺南地域活性化のための観光戦略及びワーケーションを活用した観光戦略	13
(1) アドバイザーからの提案	13
1) 地域の強み	13
2) 地域の課題	15
3) 嶺南地域で描く観光ストーリー	16
4) 持続可能な地域共存システムの構築	19
5) 地域共存システムを作る多様な主体の集まり	20
6. 嶺南地域活性化のための観光戦略及びワーケーションを活用した観光戦略	21
(1) 嶺南地域活性化のための観光戦略	21
(2) ワーケーションを活用した観光戦略	22
7. 報告会の実施結果	23

0. はじめに

(1) 目的

福井県嶺南地域（敦賀市、小浜市、美浜町、若狭町、おおい町、高浜町）（以下、「嶺南地域」という）においては、2024 年春の北陸新幹線敦賀延伸や 2025 年の大阪・関西万博開催を控え、観光客を呼び込みやすい環境にあるため、国内のみならず海外からの観光客をより集客出来る可能性がある状況であることを契機に、本事業では嶺南地域が観光でより潤う地域となることを目指す。

(2) 事業概要

嶺南地域の観光を今以上に地域が潤う産業として成熟させることを支援するという観点から、地域内の地域資源を発掘し、磨き、観光客を引きつける観光ストーリー（例えば、嶺南に行けば御食国の文化が体感できる等）を描くとともに、描いた観光ストーリーにはそれぞれに顧客ターゲットを定めて、ターゲット層ごとに効果的な情報発信を行うことを目的とし、観光に知見のあるアドバイザーを現地に派遣、地域内の地域資源を発掘し、観光戦略、その具体策及び先進事例を提示した。

①嶺南地域へ派遣する観光アドバイザーの選定及び派遣

②アドバイザーに対する嶺南 6 地域の観光振興の現状と課題の提示

③アドバイザーとのディスカッションの機会の設置

④嶺南地域活性化のための観光戦略の提示

嶺南地域の観光をより地域が潤う産業とするために必要とされる仕組みについてアドバイザーの意見を踏まえて検討し、それに基づいた観光戦略を提示した。

⑤先進事例の提示

国内・海外において、地域が潤う仕組みを取り入れ、観光が盛んになった事例をアドバイザーの確認を受け、5 つ以上提示した。

⑥報告会の開催

嶺南地域において開催し、アドバイザー・事務局から、関係者に対し、今後の嶺南地域の観光戦略の方向性を提示し、先進事例を報告した。

1. 提示する先進事例

(1) 地方において観光が地域振興に寄与している事例

1) 株式会社南信州観光公社（長野県）

体験観光の先進地として全国から注目され、年間 110 以上の学生団体を受け入れ。

- ①教育旅行をターゲットに設定。
- ②南信州の自然や産業、生活、文化、スポーツ等々を求める訪問者に地域住民と共に楽しむ「ほんもの体験プログラム」を約 200 種類用意し、充実した時間を提供。
- ③事業の拡大に伴い、南信州の 18 市町村が連携して地域住民と共に年間 1~2 の新たなプログラムを生み出す。

参考資料: 南信州観光公社(<https://www.mstb.jp/>)、観光庁(地域いきいき観光まちづくり 2011)

2) 信越自然郷（長野県・新潟県）

市町村が連携して観光エリアを拡大し、スキー依存型の観光地から通年型の観光地へ

- ①飯山市単独だと年間 120 万人だった観光客入込数が、半径 20km 圏内の市町村の観光地を合わせると年間 1000 万人になることへ着目し、地域全体で観光客増加を図るべく 9 市町村の観光連絡会議設立。
- ②市町村連携により二次交通対策にも繋がる日帰りバスツアーを季節に応じて設定し、行動範囲を拡大させるとともにリピーターも増加。
- ③地域のアクティビティ事業者同士の連携や、全国展開しているアウトドアメーカーとの連携も実現し、より魅力的な商品作り。

参考資料: 日本交通公社(平成 29 年度観光地経営講座講義録)、信越自然郷(<https://shinetsu-shizenkyo.com/>)

3) ワインツーリズムやまなし（山梨県）

地域産品の認知を高めるイベントを実施し、来訪者の増加と第 1、2 次産業の生産を誘発。

- ①地域産品であるワインの歴史や作り手のエピソードを伝えることにより、ワインへの関心の惹起。
- ②ワイン産地の作り手と楽しみながら人と消費の流れをつくり出すワイナリー周遊イベントを

実施。

- ③ワインだけでなく地域の名物を楽しめる飲食店が次々とオープン。様々な業種が連携して地域の名産を提供。

参考資料：一般社団法人ワインツーリズム (<https://www.yamanashiwine.com/>)、山梨県（峡東ワインリゾート構想）

4) 株式会社美ら地球（岐阜県飛騨市）

地域のなにげない日常である民家や田んぼを巡るサイクリングツアーを考案し、3500 人の来訪者を獲得。

- ①異なる文化に関心が強い欧米豪の人をターゲットに田舎を商品化。
- ②日本固有の田舎の風景と日常の暮らしを伝えるために、地元住民がホスピタリティを発揮するよう地域との関係を構築。
- ③トリップアドバイザー（世界中の人が利用する旅の口コミサイト）でも高評価されており、新規来訪客の獲得に繋がっている。

参考資料：山田 拓（外国人が熱狂するクールな田舎の作り方）、一般社団法人中部経済連合会（機関誌[中経連]2018. 10）

5) 富山県

新幹線開業に向けて地域のブランディングを行った結果、観光客の延べ宿泊数の前年比伸び率全国 1 位へ。観光振興を担う人材等の育成により、自ら地域活性化を行う人材を数多く輩出。

- ①北陸新幹線の乗客を富山へ呼び込むため「富山らしい、富山ならではの」の商品やサービスを創出。
- ②全県をあげて「富山らしい、富山ならではの」の商品やサービスが提供できるよう、民間事業者と協力。また、これをサポートするため人材育成塾を開校。
- ③県民と事業者が自主的な取り組みとして来訪者の受け入れ姿勢を充実させ、リピーター確保に繋げる。

参考資料：観光庁（観光地域づくり事例集～グッドプラクティス 2018～）、藻谷 浩介 / 山田 桂一郎（観光立国の正体）

2. 先進事例等を基にした成功するための戦略的要素

(1) 事例等を基にした成功するための戦略的要素

事例より、本事業で提案する観光戦略において、「①集客（来てもらうこと）」「②持続可能な地域共存システムの構築」が必要な要素としてあげられる。

①集客【来てもらうこと】

集客するためには、以下の点が重要となる。

1) 地域資源の再評価・再定義（マーケットイン発想）

地域資源の価値を誰に届けたいか考える。

同じ地域資源であっても、設定するターゲット毎にその捉え方は異なる。地域の背後にある歴史や風土を踏まえながら地域資源を捉え直し、その価値の再評価・再定義をしていくことが必要。

2) マーケットとの「共感」を生む最適メディアでのプロモーション：

「なぜ？」その資源があるのか、「なぜ？」活用を図るのか、

再評価・再定義して明らかになる地域資源の価値を、背景にある世界観と共に伝達できるよう「見える化」し、届けたいターゲットに合わせたコンテンツづくりとメディアの最適な選択をすることが重要。

②持続可能な地域共存システムの構築

地域経済を持続させるためには、地域に入ってくるお金を増やすと同時に、地域のなかでお金が循環する比率を高めていくことが重要となる。

地域に入ってくるお金を増やすには観光客の滞在時間を延ばすことが重要である。そのためには滞在型観光や周遊性を高める工夫が必要となる。また、観光資源の質の向上、地域の「人」の魅力、おもてなし力を高める必要がある。これにより、観光客の満足感を得ることになり、満足感はリピートに繋がる。

地域内の経済的好循環の形成には地域で作られた土産産品や食事の提供（地消地産）が重要である。

また、事例からわかった観光戦略に必要な2要素のいずれにおいても、広域的な視点が重要となる。

①集客【来てもらうこと】

1) 地域資源の再評価・再定義（マーケットイン発想）、2) マーケットとの「共感」を生む最適メディアでのプロモーションについて、1つの地域だけではなく、複数の地域の魅力を掛け合わせることによってより魅力が向上。1つの地域だけでは難しい豊かな地域資源の発掘（ストーリーなど）や顧客ターゲット層の拡大につながり、それぞれのターゲットに応じたプロモーションによる集客が実現する。

②持続可能な地域共存システムの構築

魅力が向上して集客が増えることにより、より経済循環が生まれる。地方での観光戦略は複数地域で連携することが有効である。

（２）先進事例ヒアリングの実施

先進事例について詳細を把握するために、以下の通りヒアリングを実施した。

- ・実施日時：2021年12月～2022年1月
- ・対象者：

（2021年12月27日）

富山県 観光振興室 稲原氏

（2022年1月13日）

株式会社美ら地球 取締役 山田 慈芳 氏

（2022年2月16日）

株式会社南信州観光公社 地域振興事業部長 竹前 雅夫氏

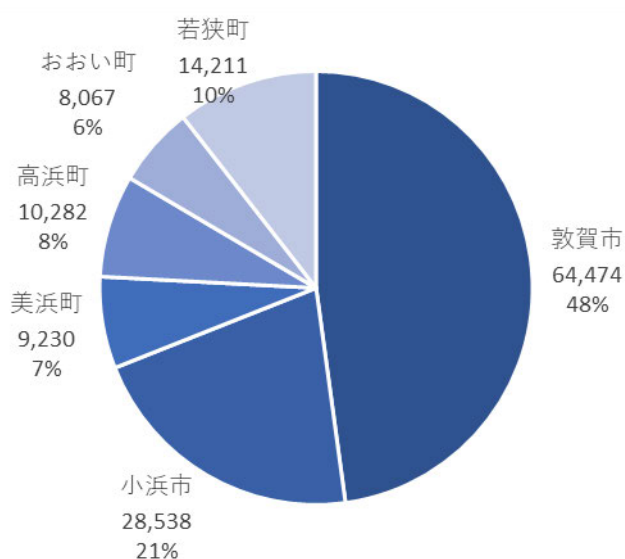
3. 嶺南 6 地域の観光振興の現状と課題

(1) 嶺南地域の現状

①人口動向

嶺南地域の人口のうち、ほぼ半数を敦賀市が占め、小浜市が約 2 割、若狭町が 1 割となっている。

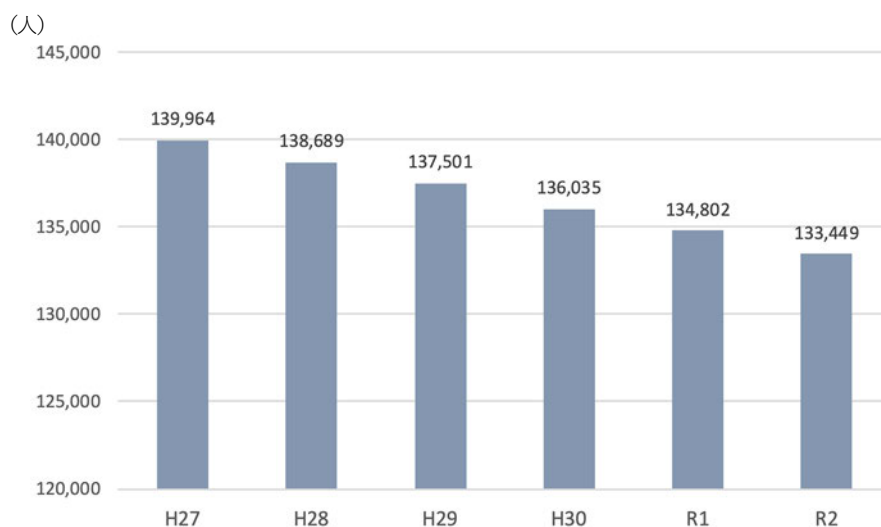
【嶺南地域の市町別人口構成】



(資料)「福井県の推計人口(年報)」(各年 10 月 1 日)

嶺南地域の人口は近年、減少が続けている。

【嶺南地域の人口推移】

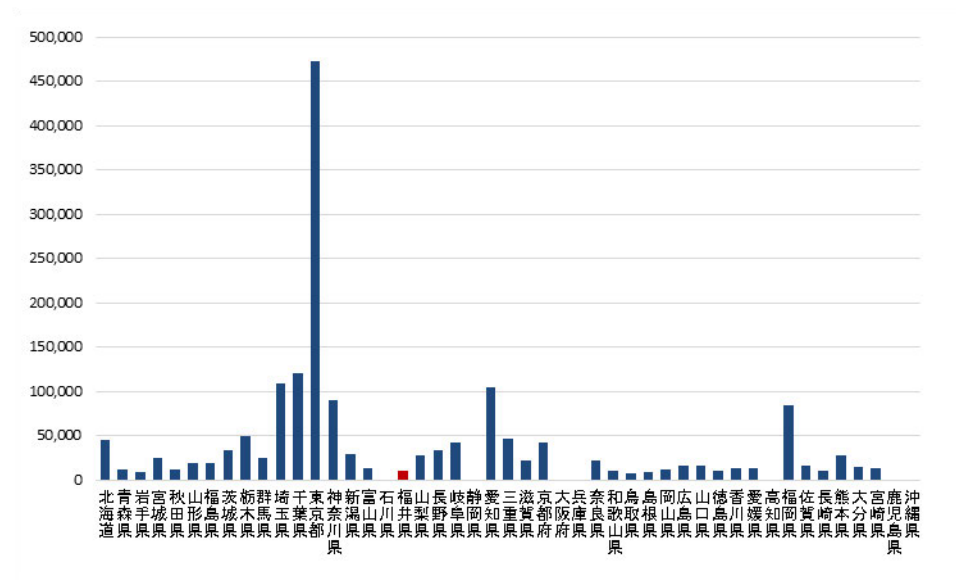


(資料)「福井県の推計人口(年報)」(各年 10 月 1 日)

②観光動向

2017 年の都道府県別観光入込客数（実数）は、10,381 千人で、未集計・集計中を除く 40 都道府県中 36 位と低位。

【福井県の観光関連指標の全国順位】

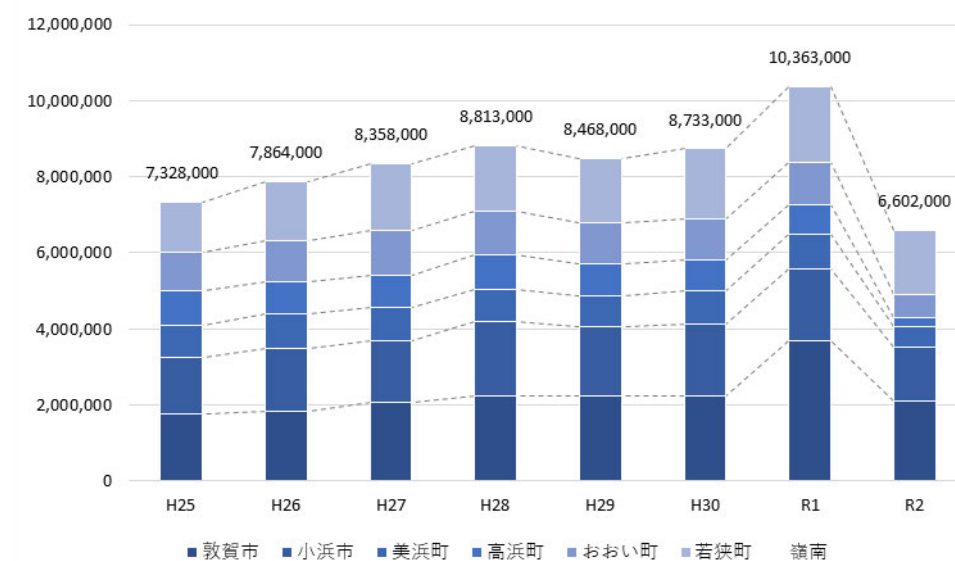


（資料）観光庁「共通基準による観光入込客統計」

市町別の主な観光客入込数（延べ人数）は、平成 30 年までは漸増傾向にあり、令和 1 年度には敦賀市の大幅増加もあり、1 千万人を超過。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり前年比 4 割近く減少。

【嶺南地域の観光入込客数の推移】

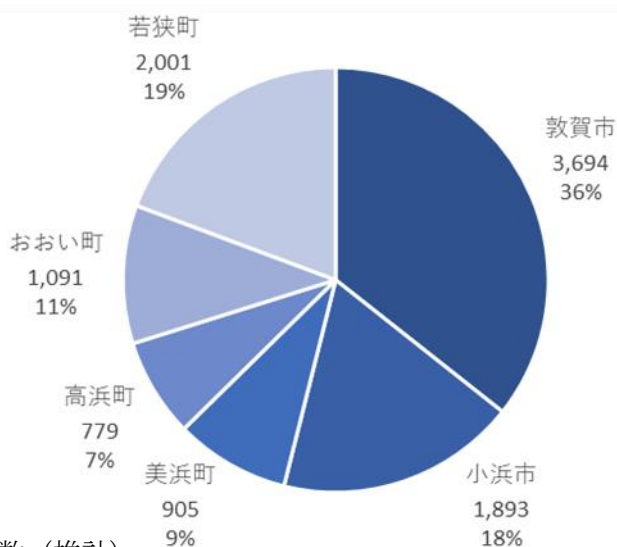
（人）



（資料）福井県観光客入込数（推計）

嶺南地区の観光入込数（延べ人数）の構成比は、敦賀市及び小浜市の合計が嶺南地区の半数以上を占める。次いで、若狭町、おおい町、美浜町、高浜町の順。

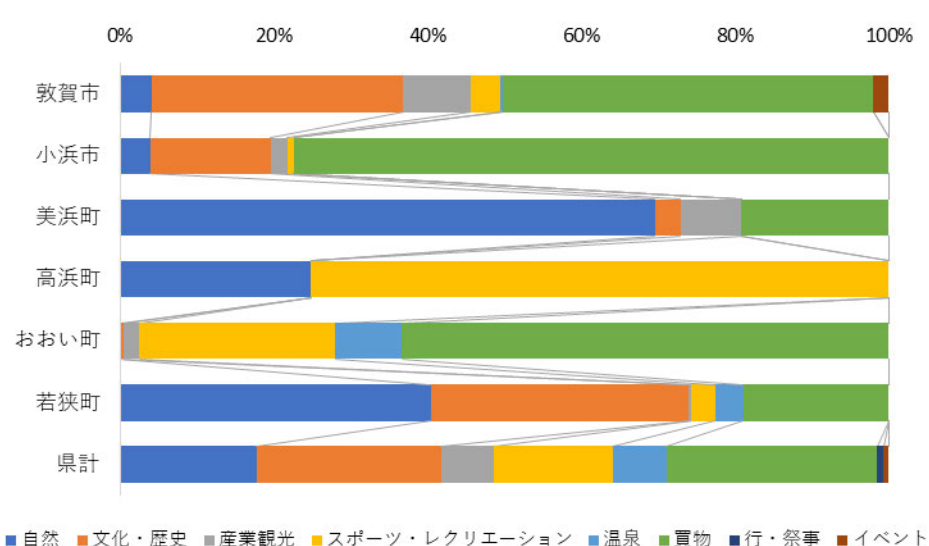
【市町別入込状況（延べ人数）（令和2年）】



（資料）福井県観光客入込数（推計）

目的別入込状況では、嶺南市町毎に目的が大きく異なっている。美浜町は「自然」の割合が大きく、小浜市、おおい町では「買い物」の割合が大きい。敦賀市、若狭町、小浜市では「文化・歴史」が一定の割合を占めている。

【目的別入込状況（市町別）（延べ人数）】



（資料）福井県観光客入込数（推計）

株式会社ブランド総合研究所「地域ブランド調査 2019」による福井県の全国順位は、魅力度 37 位、情報接触度 42 位、観光意欲度 37 位と低位に位置する。

（２）観光政策の現状、課題、方向性の把握と地域資源の調査

現地のフィールドワークにおける視察先の検討のため、各自治体の観光政策の現状、課題、方向性の把握のため、アンケートを行い、また、各自治体が推進している地域資源をヒアリングで確認した。

①自治体観光担当者向けアンケート調査

- ・ 調査日時：2021 年 11 月 12 日～19 日
- ・ 実施方式：記述式（メール回答）
- ・ 調査対象：嶺南 6 市町の観光担当者
- ・ 調査項目：観光振興における課題、観光政策の今後の方向性 等
- ・ アンケート項目：
 - ①観光振興の現状について
 - ②観光振興における課題について
 - ③今後新たにとらようとされる観光戦略の方向性について
 - ④貴市町における観光事業関係者と市町の関係について
 - ⑤その他

②地域キーパーソンへのヒアリングの実施

嶺南地域の現状と課題、今後の方向性を探るため、自治体及び地域キーパーソン、9 団体 16 名に対しヒアリングを実施した。一部、アドバイザー派遣のフィールドワーク、意見交換時にあわせて実施した。

(嶺南地域の主な地域資源)

	敦賀市	美浜町	若狭町	小浜市	おおい町	高浜町
自 然	* 気比の松原	* 三方五湖天空テラス * レインボーライン	* 三方五湖天空テラス	* 蘇洞門 * エンゼルライン	* うみんぴあ大飯（遊覧船、チャレンジショップ）	* 青葉山ハーバルビレッジ
文化・歴史	* ムゼウム * 金ヶ崎地区 * 気比神宮、晴明神社		* 福井県年縞博物館 * 若狭熊川宿	* 鯖街道 * 小浜西組伝建地区 * 寺社・仏像群	* 暦会館	
ライフスタイル			* ウェディングドレスミュージアム（仮称）			* ワークーション
体験・アクティビティ		* サイクリング（三方五湖・若狭路センチュリーライド）、若狭路トレイルラン * 漁業・農業、民泊、ボート体験		* 町屋ステイ	* 教育旅行（ねりものづくり、木炭炭焼き、暦関係、若狭パールで体験）	* キャンプ場（グランピング） * サーフィン等の海洋アクティビティ * トレッキング
生 業	食	* カニ、真鯛	* 健康楽膳拠点施設こるば	うなぎ	* 御食国（サーモン、ひらめ、まはた・鯖の養殖）	* 甘鯛（若狭ぐじ）等のメニュー開発 ※ふくいサーモンの養殖
		* 海産物（へしこ、若狭フグ、マハタ等）				
	技			* 若狭塗・若狭塗箸（箸のふるさと館 WAKASA）		
インフラ・取組意向		* ワークーション（空き家活用）		* コワーキングスペース（小浜藩主別邸）		* グリーンモビリティ

4. 嶺南地域へのアドバイザー派遣の実施概要

(1) 派遣アドバイザー

本事業のアドバイザーとして、對中 剛大（タイナカマサヒロ）氏を選定し、派遣した。



對中 剛大（タイナカマサヒロ）

タイナカ_オフィス 代表（ランドスケープデザイナー、ピクニックコーディネーター）・山のテーブル代表

[経歴]

1981 年大阪生まれ。成安造形芸術大学住環境デザインクラス卒業。建築設計事務所に勤務後、2008 年株式会社 E-DESIGN にて設計やまちづくりに携わる。2012 年フランスでのリサーチをきっかけにピクニックコーディネーターとして活動開始。2014 年独立しランドスケープデザインやまちづくり、料理家として活動を開始。同年 4 月にオープンした GULIGUL（大阪池田市）のカフェ・ギャラリーの総合プロ

デュースを立上げから運営を含め行う。2017 年京都府南山城村の廃園になった保育園を活用し、過疎集落での食で人がつながる場所づくりをテーマに「山のテーブル」をオープン。これまでに商業施設や集合住宅、学校、病院、公園等のランドスケープデザインを担当。商業施設のディレクションや運営、商品企画、国内外のまちづくりや料理イベントなど開催。

[賞歴]

- ・ 2012 年 GOOD DESIGN 賞 /E-DESIGN 担当時/兵庫県神戸市・ブリリア六甲アイランド
- ・ 2015 年 第 4 回みどりのまちづくり賞 / 大阪池田市・GULIGULI

(2) アドバイザー派遣の実施概要

下記の日程でアドバイザーを嶺南地域現地に派遣し、フィールドワークを行った。また、嶺南地域で積極的に地域振興に取り組んでいる事業者等へのヒアリングならびに意見交換を行った。

1) フィールドワーク

(2021 年 12 月 1 日～2 日)

旭座・まちの駅、小浜市鯖街道ミュージアム、おさかなセンター、若狭フィッシャーマンズワーフ、小浜町並保存資料館、小浜西組重要伝統的建造物群保存地区、道の駅若狭

おばま、御食国若狭おばま食文化館、RESTAURANT UCHITOMI、海のオーベルージュ志積、熊川宿

(2021 年 12 月 15 日～16 日)

青葉山ハーバルビレッジ、若狭和田海水浴場、うみんぴあ大飯、レインボーライン山頂公園、福井県年縞博物館、暦会館

(2021 年 12 月 21 日～22 日)

人道の港 敦賀ミュージウム、敦賀鉄道博物館（旧敦賀駅）、敦賀赤レンガ倉庫、金ヶ崎緑地、日本海さかな街、気比松原

2) 意見交換

アドバイザー派遣のフィールドワークに合わせ、7 団体 14 名と意見交換を実施した。

3) 近畿経済産業局との意見交換

(2021 年 10 月 27 日)

事業目的、内容等の共有・確認、アドバイザーの取組紹介 等

(2022 年 1 月 7 日)

フィールドワークでの気づきの共有、とりまとめの方向性についての検討 等

(2022 年 3 月 8 日)

報告内容の確認、報告会に向けた調整 等

5. 嶺南地域活性化のための観光戦略及びワーケーションを活用した観光戦略

(1) アドバイザーからの提案

アドバイザーより、以下の点に着眼し嶺南地域の観光振興を考えることが有効であるとの指摘があった。

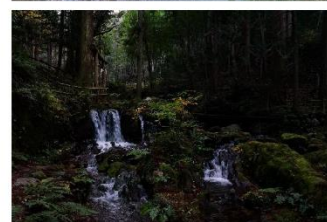
1) 地域の強み

アドバイザーの着眼点 ー地域の強みー

1

➤ 水 ー生命の源、人が集う場となる水ー

- ・ 嶺南の印象的な風景は、海・湖、里、山の近さ。その地形に育まれた嶺南の風土は地域固有のものであり、その象徴が「水」
- ・ 山から流れ出る栄養豊富な水が豊かな漁場を生み出し御食国に代表される「**食の街**」になったのではないかと考えられる。
- ・ 東大寺のお水取りの水を送るとされる神宮寺や小浜には126箇所も自噴井戸があり**豊かな自然と直結した暮らし**があった。
- ・ 名水百選にも選ばれる瓜破の滝は遠方より水を汲みに来る人が多い。美味しい食材、食や調理の源、人のからだの源でもある「水」は着目すべき嶺南の資源。「井戸端会議」という言葉からも**人が集う場が自然と生まれる可能性**も



➤ 海産物 ー食の拠点ー

- ・ 鯖街道、北前船など、古えより、御食国として京都や大阪など大都市の**食文化を支えていた嶺南地域**。
- ・ 400種類以上とれるといわれる地魚の聖地。
- ・ 若狭路として食の流通の拠点としても栄え、へしこやおぼろ昆布加工などの生業の歴史もいまに、継承されている。



アドバイザーの着眼点 ー地域の強みー

2

➤ 人 ーこの人だったらと思える人ー

- ・美味しい野菜を**育てる人**、農家のように美味しい魚を**養殖する人**。
美味しい食事をつくる人。まちの資産を**活用する人**。海や山の
アクティビティを**伝える人**。歴史やまちの説明をしてくれる人。
まちを良くしたいと**頑張る人**。

→それぞれの**地域に想いのある人々**が多く活躍されている。

➤ 暮らしと仕事

- ・日常の暮らしのなかで「**兼業**」が行われてきた嶺南地域。日
本一多いともいわれる漁家民宿など、嶺南に暮らす人びとの日
常は、現代の複業に通じるライフスタイルが根付いている。
- ・春夏秋冬の栽培や収穫の時期にあわせて、国内と海外など複
数の仕事を当たり前のようにこなしている。

➤ 宿泊 ー暮らすように泊まるー

- ・町家ステイ、熊川宿等、まちの資産をいかしながら、滞在型
の観光コンテンツが充実。
- ・滞在型の観光コンテンツや多彩なアクティビティやコンテン
ツが充実している。



アドバイザーの着眼点 ー地域の強みー

3

➤ 自然 ー美しい自然とアクティビティー

海や湖の美しい眺望。水辺でのボート体験。トレッキング。水
辺からまち、山間部とつづくサイクリングロード。自転車の駅
などサイクリストにとっても優しい場所もある。

➤ 健康 ー薬草と医食同源ー

- ・青葉山は、特有の地形により希少な植物が多く生息する地域。
約500種類もの薬草が自生する全国でも珍しい山である。
- ・修験の山としても知られ、修行僧が薬草で治療していたかも
しれない。
- ・小浜藩医であり西洋医学の先駆者である杉田玄白もまた医食
同源や養生七不可の思想を展開した。この食と健康、食と運動、
心の養生につながると考え嶺南全体でも展開できると考える。



2) 地域の課題

アドバイザーの着眼点 ー地域の課題ー

4

- 市町単体から嶺南一帯の文脈で地域資源を捉え直すことが有効。これまで各市町内で閉じていた地域資源を組み合わせにより、新たな創造が生まれる。広域で資源を捉え直すことにより、嶺南地域に通底するストーリーや価値として見えてくる可能性がある。
- 情報発信も市町単位での発信になっているところもあり、拡張性に乏しい。各市町でできることの情報を整理し、地域間で共有しあうことが次の展開のヒントになる。
- ワークーションについては、自然豊かな立地での展開は多数展開されており、ロケーションや周辺の環境だけに頼らない、現地での副業や仕事生まれる仕組みなど、新たな誘客の仕組みを考えることも必要。
- 一次産業の生産者や観光事業者の後継者不足など、観光を支える人材の不足は地域の人口減少・高齢化の進展とともに大きな課題。魅力的な観光商品・観光サービスの提供を支え、マーケット感覚を持った取り組みをリードする人材が不足。
- 北陸新幹線敦賀延伸のインパクトを嶺南全域に波及させていくための6市町連携による誘客に向けた情報発信・PRや観光事業等を支えるための連携。

- ・限定的なキーワードは拡散性がない。拡散しなければもったいない。情報や時間、お金の無駄にも
- ・市町村の境界線は目には見えない。すぐ先の情報も気づかない。
- ・嶺南全体で共有のキーワードがあれば拡散性が高まる。周遊もされやすい。
- ・観光客にとっての嶺南の魅力を地域の方も学ぶことにより「検索できない情報」をオススメすることも

3) 嶺南地域で描く観光ストーリー

アドバイザーから提案のあった嶺南地域で描く観光ストーリーは以下の通りである。

広域的な視点で描く嶺南地域の観光ストーリー（例①）

5

御食国
(海編)

對中的視点

- ・豊かな山林から豊富な栄養が海へと流れ出る「美味しい海」があること。また湾ごとの特徴が出れば地域独自の価値に
- ・海外産の鯖を使ってまで鯖をアピールしなくても「美味しい季節」を売りにする方が「食べに行きたい！」価値に
- ・嶺南全体で今どこの地域の何が美味しいかがわかると旅行者にとっても周遊がしやすく、料理人に食材が使いやすい。
- ・地理や風土に恵まれ豊富な食材と全国に食材を送る知識があったことで発酵や保存食が発達。それが嶺南の「美味しい食文化」に
- ・育つ海と育てる人、餌。鮮魚養殖も「美味しい理由」を見える化し天然に負けない味と価値に
- ・鮮度、季節、組合せなど「ここに来ないと食べれない」商品づくり

体験プログラム

- ・美味しい理由を視覚化。PRやイベント、地域営業に
- ・鯖街道やお水送り、都と歴史をたどる食のウォーキングツアー
- ・豊かな食文化や自然がもたらす御食国訴求イベント
- ・風土や豊かな漁場を生かしたブランド品開発
- ・「なぜ美味しいのか」を届ける郷土食開発や漁師飯体験

```

graph TD
    A[豊かな自然  
山、川、海] --> B[水環境]
    B --> C((漁場))
    C --> D[素晴らしい生産者]
    D --> E[美味しい食材]
    E --> F[県内外の消費者へ]
    E --> G[住民]
    H((イメージの好転)) -.-> D
    I[《美味しい証明》]
    
```

自然・歴史・風土の唯一無二の価値×視覚化＝わざわざ行きたい価値に！

広域的な視点で描く嶺南地域の観光ストーリー（例②）

6

湧水

對中的視点

- ・嶺南特有の地形が生み出した「豊富な水」と「美味しい水」
- ・嶺南特有の地形で国内でも有数の名水の地域。
- ・有名料理人など「美味しい水」としての知名度が高い。
- ・和食は「水の料理」といわれるほど水が重要。
- ・わざわざ水を汲みに来る県外客も多い。
- ・美味しい水があることは海外にとってもPRの好材料に。
- ・水を通じて嶺南を暮らしを知る。嶺南の人とつながる場づくり
- ・お水送りなど京都や奈良とのつながりを見える化
- ・嶺南の水と風土が育てた美味しい根拠を農産物にも
- ・きれいな水でしか育たない野菜などを地域資源に

体験プログラム

- ・観光、サイクリング、災害時など活用できる街中井戸のマップ化
- ・湧水を汲み、珈琲やお茶体験。湧水水系で育てられた米を湧水で炊く
- ・同じ水で育った食材の料理体験など
- ・水から考えるSDGsセミナー等（町の井戸もコミュニティの場）

```

graph TD
    A[豊かな自然  
山、川、海] --> B[水環境]
    B --> C((漁場))
    B --> D((田畑))
    B --> E((湧水))
    C --> F[素晴らしい生産者]
    D --> G[沢山の美味しい食材]
    E --> H[井戸]
    H --> I[県内外の消費者へ]
    H --> J[住民]
    H --> K[旅人]
    L[《美味しい証明》]
    
```

自然・歴史・風土の唯一無二の価値×くらしの体験プログラム＝体験価値の向上

広域的な視点で描く嶺南地域の観光ストーリー（例③）

7

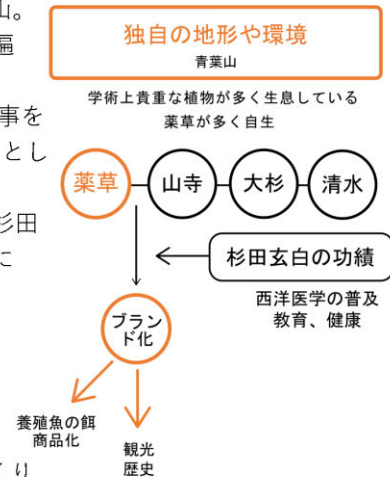
薬草と健康

對中的視点

- ・ 独自の地形や環境が生み出した500種類の薬草が育つ青葉山。
- ・ 古来から霊場であった松尾寺など疲れや体を癒しに来たお遍路さんや修験者が目的をもって多く来たかもしれない。
- ・ 嶺南は山寺も多く、お遍路や修験者が食べていたような食事を再現。携行食にもなりサイクリングや登山客など、お弁当としても販売しやすい商品に。
- ・ 蘭学や西洋医学の普及、学問の場づくりなどの功績の多い杉田玄白を食と健康、医食同源を組み合わせたブランディングに
- ・ 嶺南の魚や畜産の餌として。餌も含めた地産地消を価値に。
- ・ 薬草で育てた「健康な魚や牛」など価値に

体験プログラム

- ・ 薬草の料理教室や食と健康を学ぶ座学など
- ・ 薬草をつかった魚の養殖や家畜など、嶺南内循環の商品づくり
- ・ 携行食や健康食などのブランディングづくり
- ・ 嶺南全体の食材を使って「嶺南薬膳」としてブランディングと体験メニューづくり



各ストーリーに応じて嶺南全体の地産地消につながる商品ブランディング
＝地域事業者が連携しながら材料供給を行い、更なる地域経済の循環へ

広域的な視点で描く嶺南地域の観光ストーリー（例④）

8

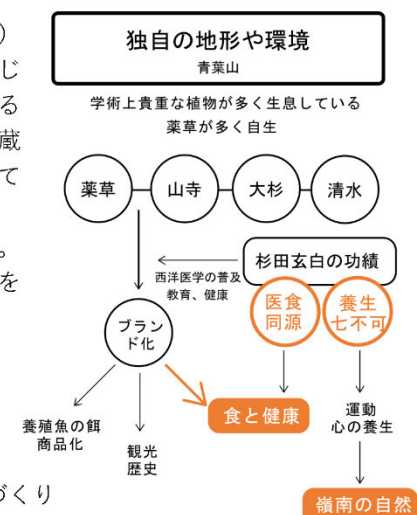
嶺南サイクリング

對中的視点

- ・ 嶺南の海岸風景（リアス式海岸、漁師町、塩田の遺構など）里の風景（熊川宿、田園）を巡りながら史跡や暮らしを感じられるコースなど様々な特徴あるコースが作ることができる
- ・ 食材を運んだ鯖街道、京都との交流で広まったとされる地蔵盆や王の舞などの民俗行事など、歴史の道、文化の道としてのブランディング
- ・ 携行食や湧き水、和紙や塗箸などのサイクリングの携行品。杉田玄白の養生七不可の考え方から健康と運動、健康と食を含めた「嶺南流サイクリング」づくり

体験プログラム

- ・ 地域をつなぐコース設定とここにしかない価値の訴求
- ・ 休憩や水の補給など「自転車の駅の活用」と嶺南の海里山などの自然を巡る「嶺南流サイクリング」のプログラムづくり



各ストーリーに応じて嶺南全体の地産地消につながる商品ブランディング
＝地域事業者が連携することで嶺南独自のプログラムに

広域的な視点で描く嶺南地域の観光ストーリー（例⑤）

9

嶺南の玄関口

對中的視点

- ・ 欧州と日本をつなぐ玄関口であり、人道支援など海外の方との交流があった敦賀金ヶ崎
- ・ 人道支援で来た人々を迎え入れた街として「人に優しい街」「平和な街」をうたうことができる
- ・ 北前船など交易で栄え現在でも昆布問屋などが残り、またニシンなど北との交易がうかがうことができる郷土料理にもストーリーを感じることができる
- ・ 京都の料亭のだれもが知る奥井海正堂の昆布を一般の人でも知る昆布に
- ・ 新幹線延伸により嶺南の玄関口に
- ・ 嶺南の水、発酵、風土、昆布や乾物など嶺南の産業で作り出す「和食」の視覚化
- ・ 人や物があつまる嶺南ターミナル

体験プログラム

- ・ 平和都市、人に優しい街としてのピクニックイベント
- ・ 昆布や乾物を使った出汁教室や和食教室、子どもたちの食育プログラムなど
- ・ 長い商店街を活用したイベントづくり、チャレンジショップなど

= 海外の方にとっても魅力的なプログラムに

人が気軽に地域に入ることができ、交流や学びになるきっかけづくり

広域的な視点で描く嶺南地域の観光ストーリー（例⑥）

10

生活と観光

對中的視点

- ・ 嶺南の暮らしに触れることが滞在時間につながる。滞在時間が増えることで関係人口やリピートにつながる。また地域の働き方を知ると移住につながると考えています
- ・ 年稿や暦など歴史や時代とリンクした暮らしの見える化も嶺南独自のものさしになる
- 地域の食材を購入し自ら調理。街でキャンプで、アクティビティと滞在日数を増やす
- 嶺南の海の暮らし、山の暮らし、まちの暮らしを見える化し体験プログラムに
（仕事や生活など）（林業や漁業、農業、伝統工芸など）
- 午前中は仕事、午後は観光など仕事が両立できる観光モデルづくり
- 嶺南全体での季節労働や必要な人材などの共有と募集の仕組づくり

体験プログラム

- ・ 地域の方が講師となる暮らし体験、郷土食づくり
- ・ めのうや和紙、漆器の活用と制作体験づくり
= 対面やオンラインワークショップにも展開可能
- ・ キッチンやワークスペースなど整備
- ・ どこで何が買える、集まる、学べる、働けるなどの情報整理と見える化
- ・ 嶺南全体での情報共有の仕組づくりとプログラム化

人が気軽に地域に入ることができ、交流やお手伝いができる仕組づくり

= 地域課題の見える化、ワーケーション、地域交流など

4) 持続可能な地域共存システムの構築

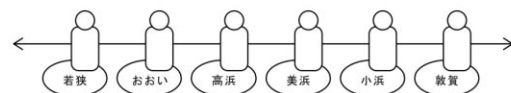
持続可能な地域共存システムの構築

一やる気のある人のつながりを生む場づくりー

11

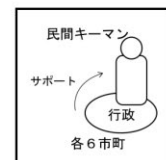
①嶺南地域一体での課題解決、ビジョン共有、広域的事業実施のための場づくり

- ・各地域の様々な業種の地域振興においてやる気のある民間のキーマンがつながり、定期的な課題共有、意見交換を通じて解決策を探る場、仕組みが必要。
- ・地域に必要な人材も嶺南全体で募り、育てていくことも必要。



②自治体、観光協会等のサポートサイドの広域的な連携

- ・公的機関がもたらす地域への信頼性は大きく、民間のつながり強化に寄与する。民間キーパーソンの連携を加速するためには自治体、観光協会等のサポートサイトの連携が下支えする。



③広域という観点から人材育成を行う学びの場の創出

- ・単なる座学ではなく、ツアー造成、商品開発・商品改良等の販路開拓など、具体の出口を意識したプロジェクト・メイク型のワークショップ等を展開。

④嶺内外の接点の開発（ガイド・インストラクター等の担い手育成）

滞在型体験プログラムの企画やその運営に必要な人材確保のための「人材育成塾」の開催を通じた情報と人材交流。

⑤地域課題を解決する

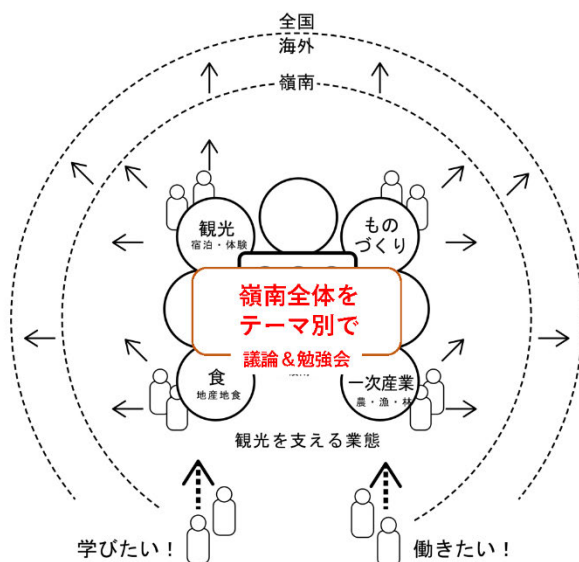
「しごとプラットフォーム」

各市町を越えて俯瞰しながら地域課題や事業課題を解決するための取組を推進。専門的な職能の融通、季節毎・時間毎の人材不足の補完等を実現する「しごとプラットフォーム」の構築など、地域共通の課題である人材不足とその「しごと」を媒介にしてつないでいくことを通じて、地域間の関係強化にも寄与。

⑥地域を巡るワーケーション、インターン等

地域の人的リソースや課題に関する情報の結節点となり、内外の関係構築のための交流の場となりうるワーケーション施設や嶺南版インターン等、さらなる受け入れ機会づくりのための仕組みづくり。ワーケーション施設等を巡る「しごと体験滞在ツアー」等。

12



5) 地域共存システムを作る多様な主体の集まり

地域共存システムを作る多様な主体の集まり

13

住民、地域事業者、生産者が共に支え合う地域観光

(生産者、小売・サービス、飲食、宿泊、交通事業者など多様な人材の参画)

①企画できるプロデュース人材の育成、広域ネットワーク化

- ・地域の課題を見据え、未来をつくるプロジェクトメイクを参画者を調整しながら進めていけるキーになるプロデュース人材の存在が求められる。
- ・さらに、地域観光のキーパーソンを広域でネットワーク化することにより、共通の課題を解決しあい、補完的な事業展開を推進することによる相乗効果も期待できる。

②「住んでよし、訪れてよし」の観光への転換

- ・観光は地域内外の人びとの関係づくりの有効な接点となる。観光により地域を訪れ、そこに滞在し、再び訪れることにより、両者の関係が強化され、二地域居住、移住・定住へと進展する可能性を有する。観光客としてだけでなく、地域での暮らしの価値観を共有する「交流人口」として来訪者を捉え直し、移住・定住の促進により、地域産業の担い手不足の解消につなげることも可能である。

③可変性のある「余白」のある仕組みづくり

- ・事業のプロセスにおいて、固定的ではなく新たな人材が入って来れる「すきま」のある体制の余白、事業プランにおいても新たな事業を組み込んでいける余白があることで、事業の活性化が期待される。

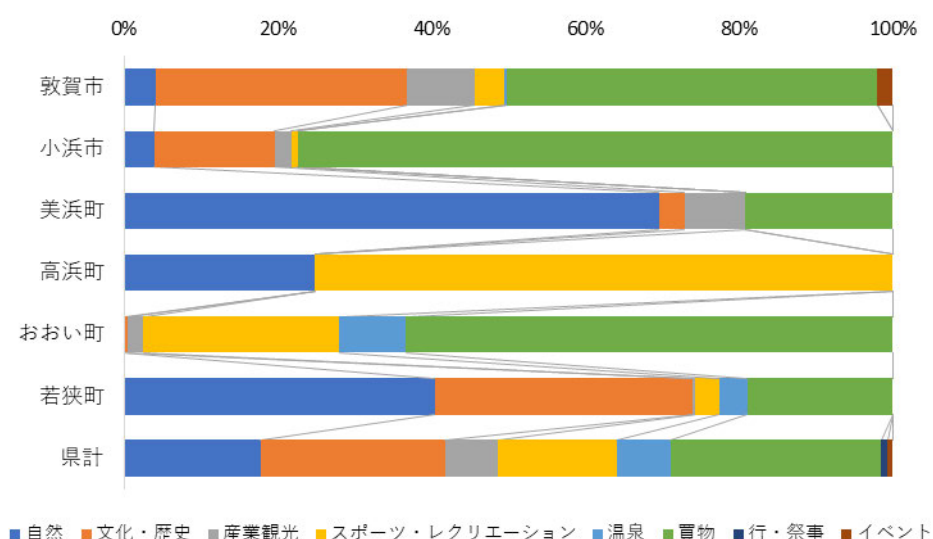
6. 嶺南地域活性化のための観光戦略及びワーケーションを活用した観光戦略

アドバイザーからの提案、参考事例等の取組内容を踏まえ、嶺南地域活性化のための観光戦略及びワーケーションを活用した観光戦略をとりまとめた。

（１）嶺南地域活性化のための観光戦略

目的別入込状況では、嶺南市町毎に目的が大きく異なっている。敦賀市は「文化・歴史」と「買い物」、小浜市は「買い物」と「文化・歴史」、美浜町は「自然」と「文化・歴史」、若狭町は「自然」と「文化・歴史」、おおい町は「買い物」と「スポーツ・レクリエーション」、高浜町は「スポーツ・レクリエーション」と「自然」。

【目的別入込状況（市町別）（延べ人数）】



（資料）福井県観光客入込数（推計）

上記のように、市町ごとに魅力（売り）に特徴があり、課題解決の方向性が似ている自治体もあることから、それぞれの市町の魅力を掛け合わせて、協同で課題を解決することが有効ではないかと考えられる。

以上より、地方において観光が成功するための戦略として以下を提示する。

- ①地域の魅力を整理しマーケットイン発想で集客を行うこと、
- ②投下される観光収入を増加させるとともに、その資金が地域に還元される比率を高めることで持続可能な地域共存システムを構築すること

が重要であり、このことは**広域的な視点**で捉えることによって、より効果が高まる。

- また、**嶺南地域**には上記の視点を意識しつつ**地域振興**に対し**創造的・持続的な事業活動**を行う事業者が活躍している。
- 彼らのサポートも含め、**自治体の枠を超えた広域的な事業連携**を進めていくことが、**嶺南地域において観光が地域振興の一方策となりうる**と考えられる。

（２）ワーケーションを活用した観光戦略

ワーケーションについては、自然豊かな立地での展開は他地域においても多数展開されており、ロケーションや周辺環境だけに頼らない、仕事が生まれる仕組みなど、新たな誘客の仕組みを考えることも必要であると考えられることから、ワーケーションを活用した観光戦略については以下を提示する。

●地域を巡るワーケーション、インターン等

ワーケーション施設は、地域の人的リソースや課題に関する情報の結節点となり、内外の関係構築のための交流の場として活用することが有効である。

さらなる受け入れ機会づくりのための仕組みづくりとして、ワーケーション施設等を巡る「しごと体験滞在ツアー」等の企画により、観光、移住、定住へとつながる域外人材との接点機能を強化させていく。これにより、各市町が抱える共通の地域課題や事業課題を解決に寄与し、地域間の関係強化にも寄与するものと考えられる。

7. 報告会の実施結果

以下の通り、報告会を開催した。

名称：「近畿経済産業局 観光調査事業 嶺南地域報告会」

日時：2022年3月10日（木）13：00～15：00

場所：若狭合同庁舎（4階会議室）小浜市遠敷1丁目101番地

内容：・観光調査事業のご報告「地方における地域活性化のための観光戦略について」
（近畿経済産業局）
・意見交換

参加者

【自治体】（8名）

【近畿経済産業局 調査事業委託先】（2名）

【近畿経済産業局】（4名）

二次利用未承諾リスト

報告書の題名：

令和3年度原子力発電施設等立地地域基盤整備支援事業（福井県嶺南地域間連携による地域活性化支援事業）報告書

委託事業名：

令和3年度原子力発電施設等立地地域基盤整備支援事業（福井県嶺南地域間連携による地域活性化支援事業）

受注事業者名：株式会社ダン計画研究所

[illegible]